

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社 ケアジャパン		
事業所名	グループホーム 永山亭 ユニット1		
所在地	旭川市永山4条22丁目 4-12		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0172901852-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0172901852-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成29年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当時より犬を飼育しており、入居者の方たちの癒やしとなっています。また、餌やりなどを行って下さる入居者の方もおり、可愛がって下さっています。  
 食事は、施設内で調理しており、家庭的な雰囲気や味を感じて頂ける様に配慮しています。また、入浴は、機械浴を配置し、車椅子の方でも安心してお湯に浸かって頂け、機械浴室はヒバ造りになっており、一般浴室よりも広く作られている為、木のぬくもりやゆったりと入っていただくことができます。  
 室内レクリエーションは、ジンギスカンパーティーや新年会等を計画、外出レクリエーションは、春から秋にかけて身体の負担にならない程度に計画し、少しでも季節を感じていただけるように配慮しています。また、町内会の行事にも参加させて頂き、地域との交流もさせて頂いています。  
 入居者の方が抱えている困難さに寄り添いながら支援出来る様に努め、入居者の方々が、ゆっくりと安心して生活していただける様に共に生活をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 永山亭」は、スーパーや銀行、商業施設などが立ち並ぶ国道に近い静かな住宅地に立地している。近くには旭川大学や大学の付属幼稚園もあり、看護実習生の受け入れや幼稚園児との交流なども行われている。大学祭には事業所として協賛し、利用者と一緒に外に出て出掛けを楽しむなどしている。施設長を中心に全職員で理念を共有しながら、その人らしさを受け入れられる地域環境づくりを目指して、お祭りや花見などの行事に積極的に参加して地域交流を深めている。また、近隣住民に野菜のお裾分けを戴いたり、除雪などを手伝ってもらうなど日常的な交流も行われている。運営推進会議は、製菓会社によるインフルエンザの予防についての講話などテーマを工夫しながら、幼稚園長や薬局職員など他方面に渡る方々に参加を依頼して充実した会議を行っている。職員は、各利用者の介護計画を把握しながら変化や課題を詳細に記録に残し、日々の記録を介護計画の見直しに活かしている。施設長は、計画的に内部研修を行いながら職員の資質向上に向けて取り組むと共に、各職員の提案や意見を聴き取りながら働きやすい職場環境の整備に努めている。全職員で利用者一人ひとりの意志を尊重しながら、本人の思いに沿った家庭的で温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型施設としての意識を内外の研修を通じて周知しており、また、理念の中に「その人らしさを受け入れられる地域環境づくりの実現」を盛り込むことで、意識の共有を図っている。	「その人らしさを受け入れられる地域環境づくりの実現」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言を入れたケア理念を作成し、事業所内の要所に掲示している。年数回ミーティングで再確認しており、職員も理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	廃品回収や町内の行事(夏まつりや花見、町内の総会等)に参加させて頂き、少しでも永山亭が町内の皆様に知っていただけるよう行動することで、入居者の方々が町内に参加できると考え、努めている。	幼稚園児が来訪してお遊戯会の出し物を見せてくれたり、看護学校の実習生との交流もある。近くの住民から野菜を頂いたり、除雪を手伝ってもらう事もある。近隣にチラシを配布して夏祭りに参加を呼びかけ、数人の地域住民が来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて認知症状の説明や、事業所内で行っていることの説明を行っている。また、町内会館にて認知症サポーター養成講座を地域包括支援センターに協力を得ながら行い、地域貢献に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害対策などについて報告した折に、様々な意見を伺え、対策に活かしている。また、サービスの実際についても報告しており、意見を頂いている。	民生委員や家族会会長なども参加して、製薬会社によるインフルエンザの予防についての講話や雪害発生時の対応、地域の災害対策などをテーマにして開催している。町内会役員の欠席が多いため、更に参加を働きかけていきたいと考えている。	会議案内にテーマを記載して事前に意見を聴き取るなど、参加できない家族の意見も会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との連絡はあまり取れていないが、地域包括支援センターが主催する研修への参加や、取り組みなどへの協力は行っている。	施設長は、各種書類の提出や生活保護受給者のおむつサービス関係の手続きなどで市役所を訪問している。地域包括支援センター職員とは2か月ごとに会う機会があり、何かあれば相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、防犯の為に夜間のみ行っている。また、研修を通じて周知を図っている。また、職員の自由さを入居者の方々も得られる事を基本的な考え方として周知を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した「身体拘束等の廃止マニュアル」を整備している。内部研修やミーティングで、不適切な対応や言葉かけについて学びを深め、気になる対応があれば施設長はその都度注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、内外部研修にて周知を図り、理解を得ている。また、定例ミーティングなどにおいても、対応の仕方や支援の方法について、虐待などに繋がるようなことは無いかを聞き取り、検討している。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加し、知識を得る機会は持っているが、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関わる頻度は多くない。しかし、必要があった時に対応できるように、関係者との関係性の構築には努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず説明を行った後疑問点や不安等を聞き取りし、蔑ろにしないように努めている。また、改定時等は、直接説明できるような場を設け、都度疑問を聞き取るようにし、納得が得られるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コミュニケーションを密に取ることで、信頼関係の構築に努め、意見や要望を気兼ねなく言って頂ける様に配慮している。また、要望や意見があった時には、運営推進会議などで、都度報告している。	来訪時に本人の様子を伝えながら意見や要望を聞き取り、内容に応じて介護記録に記入している。今後は、些細な意見や職員の気付きなども個別に記録しながら、更に家族の思いの把握に取り組んでいきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティングの他に、個別にて面談を行うなどし、意見や提案を聞く機会を持っている。また、日常的なコミュニケーションを取ることで、話しやすい環境の整備に努めている。	毎月全体会議とユニット会議を行い、各職員の意見や提案を聞き取りながらケアや業務の流れなどを検討している。施設長は、職員の休憩時間などを活用しながら個々の職員の思いを聞き取り、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	都度、要望を聞きながら、労働時間等の調整を行い、内外研修への参加を促し、技術や知識を深めることで、やりがいや向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別面談や、定例ミーティングにてその都度課題を発掘し、内部研修にて課題の解決を図り、知識や技術の向上を図っている。また、現場の中で生じた疑問等について都度答えを求めることで、トレーニングに活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターへの協力をを行いながら、他事業所とのコミュニケーションを図り、サービスが向上出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时、入居前から始まり、入居後も適度なパーソナルスペースを確保しながら、積極的なコミュニケーションを図り、永山亭を自宅(最も安心できる場所)と思って頂ける様関係性の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时より困難さについて、また、要望について聞き取りを行い、永山亭として出来ることのお話をさせていただき、適しているのかを判断して頂きながら、入居後の状況について、ご家族の方と情報を共有しながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学时よりコミュニケーションを図ることで、信頼関係が築けるように努めている。また、入居後に関しては、ゆっくりと過ごしていただきながら、困難さの把握を行い、支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活することで、良好な関係性が築けるように努め、相互に助け合える感覚を入居者の方にも抱いて頂くことで、共に支え合う関係性の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方とのコミュニケーションを積極的に図ることで、要望や感じていることに出来るだけ気づけるように努めている。また、ご本人を中心に置きケア出来る様に、ご家族に働きかけ、共に支援の方向を考えて頂ける様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があった時には、身体状況を考慮しながら、通っていたサークルなどへの送迎などは行っている。また、出来るだけ、関係性が継続できるように、友人の方などの連絡などには対応し、関係性が途切れないように努めている。	宗教関係や仕事関係の友人が来訪する利用者もいる。本人の希望に応じて職員と一緒に外出したり、馴染みの美容室への送迎を行っている。家族と一緒に墓参りや外出に出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居後には、パーソナルスペースに配慮しながら、出来るだけコミュニケーションを図って頂ける様に仲介などを行っている。また、孤立しないように、座っていただく位置等に配慮し、良好な関係性の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご家族から電話を受けることはあるが、支援を望まれることは現在までない。相談や支援が必要な場合には対応を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	都度、聞き取りや様子から把握に努め、意向の把握に努めている。また、伝えられない方に関しては、日常の表情や言動に留意し、意向の把握に努めている。	各利用者に応じた対応を行いながら信頼関係を築き、会話や表情、仕草などから思いを汲み取っている。気になる事があれば家族に確認して、本人の意向に沿えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後にご本人とご家族の方に時間を作っていただき、聞き取りを行っている。また、出来るだけ馴染みの暮らしをして頂く為に、居室に自宅の再現が出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日のリズムを決めてしまわないように配慮し、その時々々のリズムにあった支援が出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族はもとより、職員や看護師、主治医等から情報を収集しながら、よりよく生活していただける様に介護計画の作成に努めている	介護計画に沿って変化や課題を詳しく記入した日々の記録を基に、計画作成担当者が毎月支援経過記録を作成し、6ヵ月ごとに介護計画を見直している。センター方式シートも6ヵ月ごとに更新して現状を詳しく把握し、更新計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとに記録の記入を行っており、支援の中や日々の生活の中から気づいた点についても記録し、共有を図ることで、介護計画の見直しに活かせる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の方々のニーズに対し、対応できる範囲の中で実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会で行われる行事に参加させていただき、町内会の方々と交流を図ることで、少しでも入居者の方々と職員の顔を覚えていただき、協働して頂ける様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体状況を考慮しなければならないが、要望があった時には、出来るだけ入居前に通院されていた病院は変更せず、かかりつけ医との関係性が築けるように努めている。	かかりつけ医や専門医など、全ての受診に職員が同行して状況を伝えながら、適切な医療が受けられるように支援している。受診記録は個別に受診先ごとに記録して分かりやすく整理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、職員は日常の状況を報告することで、情報の共有を図っている。また、看護職員はバイタル測定や健康相談等で得た情報を職員に報告し、相互の情報共有を図ることで、適切な受診や看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院に対し情報提供を行っている。また、こまめに連絡を取り、状況を把握しながら早期に退院できるように、病院関係者との協働に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を作成し、入居契約時や主治医から話があった時等に方針について説明している。また、適切に医療が受けられるように、ご本人を交え、ご家族と永山亭、主治医にて面談を行い、ご本人、ご家族の希望に対して、すり合わせを行い、不安を抱かずに今後も生活して頂ける様に努めている。	利用開始時に「重度化看取りに関する指針」に沿って事業所として可能な対応について説明している。体調変化に応じて主治医、家族、事業所で可能な対応について検討して家族の意向を聞き取り、希望に応じて看取り対応も行っている。昨年度も1名の看取りを実施し、ミーティングで振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車を呼ぶ目安を目に付くところに配置し、また、急変時や事故発生時のマニュアルを作成し周知している。その他、定期的ではないが、急変時の対応について、研修を行い、適切に対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練にて、日中帯・夜間帯の想定を行い、災害時の訓練を行っている。また、緊急時には地域住民の方が協力の要請に応じて下さった為、緊急連絡網に連絡先を載せており、災害時の協力体制の確保に努めている。	防寒用品を含む災害備蓄品を整備し、年2回、近隣住民も参加して昼夜の火災を想定した避難訓練を実施しているが、この2年間は消防署の協力は得ていない。職員の救急救命訓練講習を今後も計画的に進めていく予定である。	年1回は、消防署の協力の下に避難訓練を実施するよう期待したい。また、火災以外の地震などを想定して、室内の危険箇所の確認やケア別における適切な対応について職員間で再確認するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にて、不適切ケアや接遇について行い、声掛けの質についての意識づけを図り、誇りやプライバシーの確保に努めている。	名前を「さん」付けで呼び、会話の中で利用者の思いに沿って愛称で呼ぶこともある。職員はケアを行う前に意向を確認しながら丁寧に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活を共にすることで、信頼関係を構築し、気兼ねなく自己決定できる環境の整備に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとして時間を作り、個別に対応できるように努めている。また、寄り添いながらその方々に応じた生活をして頂ける様に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みに合わせて、選んでいただきながら、毎日の格好を一緒に選んでいる。選ぶことが難しい方については、ご家族から聞き取りを行い、好きな色や形等についての把握に努めている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いのないように、手伝って頂いている。また、提供に関しては、摂取状況や摂取量に応じて無理なく摂取していただけるように、提供方法や形態を都度検討し、食事が負担になることのないように努めている。	献立に好みや季節の料理を取り入れ、栄養バランスに配慮した食事を提供している。寿司等の出前を取ったり、外食を楽しむ機会もある。利用者は調理の下拵えや野菜を切ったり、おやつ「どら焼き」作りなどに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	採血結果等について、主治医と連携や相談を行い、栄養状態が低下している時には、経腸栄養剤を処方していただくなどし、栄養のバランスが保てるように配慮している。また、水分に関しては、食事・水分摂取表を利用し、摂取量の把握を行いながら、摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもとより、口腔内の状況に応じて、歯ブラシやスポンジ等を使用することで、口腔内の保清が図れるように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いることで、排泄のリズムを把握しながらトイレ誘導が行えている。また、パットやリハビリパンツを使用しても、継続的に使用するのではなく、排泄の状況に応じて都度検討し、出来るだけ自立して頂ける様に努めている。	全員の排泄状態を把握し、本人の排泄リズムに沿って声かけやトイレに誘導している。夜間は状態を見てベッドでのパット交換やポータブルトイレを使用する事もある。立位動作に働きかけて、トイレで排泄ができるように自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を主治医に報告し、緩下剤の服用量や回数等について指示を仰いでいる。また、牛乳などについては、排便状況に応じて提供を行うなど、便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員の配置上、入浴の曜日は決まっているが、時間は特に決めておらず、要望が合った場合には出来るだけ対応できるようにしている。また、入浴剤の使用や室温を一定に保つなどし、出来るだけ入浴を楽しんでいただけるように配慮している。	週4回を入浴日とし、午前・午後の時間帯に週2回の入浴を支援している。1階に機械浴の設備があり、安全面に配慮して入浴を行っている。入浴の順番や同性介助の希望に沿って対応し、入浴中は職員と会話を楽しくして気持ちよく入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を設けることなく、眠らなくなったら寝ていただき、夜間帯の巡回は必要以上に行わないことで、安眠や休息を取って頂ける様に支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を目に付くところに配置し、すぐに手に取れるようにしている。また、薬について疑問がある場合には、主治医に聞くことで、薬の目的や副作用について把握出来る様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に参加していただくことが必要と考え、対応している。無理強いする事なく、日々の生活を楽しんでいただけるように、やりたいことは何かを探りながら共に暮らせる様に努めている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況を考慮しながら、希望には出来るだけ添えるように努めている。また、永山亭を地域の方々を受け入れて頂ける様に働きかけを行っている。ご家族からの希望があった時には、送迎などの支援も行っている。	近所の庭の花を見て周囲を散歩したり、個別の買い物に出かけている。プランターでの花づくりや畑の収穫で外気に触れて楽しんでいる。外出行事では季節の花見や紅葉見物、果物狩り等に出かけ、利用者の状態に合わせて個別支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等に同行し、出来るだけ本人に支払いをしていただくなどし、自らの力で買い物をして頂ける様に努めている。また、接遇等の研修にて、入居者の方々のお金に対する考え方の意識づけを行い、大切さに対する理解に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった際には、随時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内部研修にて、不快な刺激についての周知を図り、不必要な刺激の排除に努めている。また、職員の心地よさではなく、入居者の方々が如何に心地よく過ごしていただけるのかを検討し、共有空間づくりに努めている。	居間は食卓テーブルと別にソファ席を設け、一体的な配置の広々としたスペースは解放感がある。時計を見やすい所に設置したり、手作りの日めくりカレンダーを掲示している。壁には利用者も参加した作品や普段の暮らしが分かるような写真が飾っており、温かで家庭的な雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の配置を工夫すると共に、DRIにソファをたくさん配置し、好きな場所に座っていただいている。また、一人になりたい時には、事務所などの場所を提供し、居場所づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の面談時に自宅でのお部屋を再現して頂ける様に相談を行い、自室だけでも環境の変化が少なくできるように努めている。	居室内にはクローゼットや洗面台が備え付けられている。使い慣れた整理ダンスなどの家具類や小物類、仏壇、雑誌類、ぬいぐるみ、家族の写真、本人の作品などを飾り、馴染みの物に囲まれて安心できる居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	DR内には、適所に手すりを配置し、安全が保たれる様に配慮している。また、居室内は、出来るだけ自宅の再現を行いながら、その都度状態に合わせて家具の配置等の工夫を行う事で、自立した生活を送って頂ける様に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社 ケアジャパン		
事業所名	グループホーム 永山亭 ユニット2		
所在地	旭川市永山4条22丁目 4-12		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0172901852-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0172901852-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事を施設内にて調理することで、家庭的な雰囲気や味を感じていただけるように配慮しています。また、機械浴を配置し、車椅子の方でもゆっくりとお湯に浸かって頂くことができます。機械浴室はヒバ造で一般浴室より大きい為、木のぬくもりや香りを感じていただきながら、ゆっくりと入浴して頂けます。  
施設内でのレクリエーションの他、外出レクリエーションを春から秋にかけて入居者の方々の負担にならない程度に計画し、少しでも季節を感じて頂ける様に配慮しています。また、町内会の行事にも参加させていただき、地域との交流もさせて頂いております。  
入居者の方が抱えている困難さに寄り添いながら支援出来る様に努め、入居者の方々が、ゆっくりと安心して生活していただける様に共に生活をさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に付きやすい場所に掲示すると共に、理念を定期的に再確認し、また、入社時には新人スタッフ研修の中で、理念の説明を行い共有を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方との日常定期的な挨拶などによる交流を図り、町内会のイベント(廃品回収等)に参加し、また、町内会総会などにも出席することで、少しでも永山亭を受け入れて頂ける様に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの主導ではあるが、町内会館などで、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の方がどのように生活され、どんな困難を抱えているのかを発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	永山亭が抱えている課題等についての報告等を行い、質疑や提案などを受けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者との連絡はあまりとっていないが、地域包括支援センターの職員とは、連絡を取ることが多く、協力関係の構築に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて周知を行い、身体拘束や不適切ケアなどについての知識の向上を行っている。また、玄関の施錠などについては、特別な仕掛け等は使用せず、日中は常時自動ドアが開くようになっている。夜間帯に関しては、防犯上の観点から施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、内部研修にて周知を図り、知識の向上に努めている。また、個別に聞き取りを行うとともに、職員のストレスについても気を配り、虐待の防止に努めている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加しているが、学ぶ機会や携わる機会は多くない。希望や必要性があった時には、関係機関と連携が取れるような体制の確保には努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用規約や重要事項を説明する際に、都度疑問点や不安点については聞き取りを行い、また、入居後についてもコミュニケーションを密に取ることで、信頼関係の構築に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方や家族の方との信頼関係の構築に努め、要望や希望等があった時には、家族会総会などの場や日常的に言ってもらえる様に配慮している。また、運営推進会議などにおいて、報告している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別での面談やミーティングなどにおいて、コミュニケーションを図ることで、提案や意見を言いやすい環境の実現に努めている。また、全体の意見として上がったモノについては、検討し対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の内容を充実させることで、知識欲の向上を図っている。また、経験に伴った技術が身につくことにも一役買っている。労働時間に関しても、職員を十分に配置することにより、若干ではあるが時間の調整が図れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年4回の内部研修や随時外部研修に参加することで、知識や技術の向上を図っている。また、疑問を持ちながら仕事に取り組む様に意識づけを行っており、職員が育つように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主導ではあるが、永山圏域の管理者の打ち合わせに参加し、各事業所との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时、入居前から始まり、入居後も適度なパーソナルスペースを確保しながら、積極的なコミュニケーションを図り、永山亭を自宅(最も安心できる場所)と思って頂ける様関係性の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時から現在の困難さや永山亭に対して望む事を聞き取ることに努めている。また、入居後は来訪時や電話にて話しやすい環境を整備し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時から現在の困難さや永山亭に対しての要望や期待することを聞き取り、永山亭として対応出来ることとのすり合わせを行う事で、過度な期待や要望を持ち不安を抱きながら生活を送られることのないように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の方々と一緒に生活をしている一員と意識づけを行い、互いに困ったことがあった時には支え合いながら互いに生活が送れるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信などで、日常の様子を共有することで、一緒に入居者の方を支えあって頂ける様に。また、要望や希望の他にも、コミュニケーションの中から、望まれていることに気づけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体状況に応じて、出来るだけ通われていた美容院や病院などとの関係性が継続できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションをとりやすいように、ソファを配置し、出来るだけ会話がしやすい様に配慮すると共に、会話に齟齬があった場合などには、仲介し孤立等が防止できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご家族から電話を受けることはあるが、支援を望まれることは現在までない。相談や支援が必要な場合には対応を行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に暮らし、入居者の方々一人一人を中心に考えることでどんな思いを持ち、困難さを抱えているのかを把握し、課題の解決に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に聞き取りを行い、また、入居後も家族の方に時間を作っていただき、聞き取りを行う事でこれまでの暮らしの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面談にてご本人やご家族に聞き取りを行い、不自由のないように対応しながら、永山亭での生活の中で様子観察を行い、把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族はもとより、職員や看護師、主治医等から情報を収集しながら、よりよく生活していただける様に介護計画の作成に努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとに記録を行いながら、その時々のお話内容等を記録し、状況や状態の把握に利用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の方々のニーズに対し、対応できる範囲の中で実施している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会で行われる行事に参加させていただき、町内会の方々と交流を図ることで、少しでも入居者の方々と職員の顔を覚えていただき、協働して頂ける様に努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体状況に応じて、主治医との関係性を継続的に保てるように配慮し、出来るだけ通院していた病院への受診介助を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、職員は看護職員に情報や気づきを報告し、共有を図っている。また、看護職員はバイタル測定や健康相談などから得た情報や気づきについて、職員に報告し、情報の共有を図り、適切な受診や看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院した際には、こまめに病院との連絡を取り、状況や状態の情報共有を図るとともに、ご本人やご家族の希望を伝え、安心して治療を受けられる様に。また、早期退院に向けて、相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を作成し、入居契約時や主治医から話があった時等に方針について説明している。また、適切に医療が受けられるように、ご本人を交え、ご家族と永山亭、主治医にて面談を行い、ご本人、ご家族の希望に対して、すり合わせを行い、不安を抱かずに今後も生活して頂ける様に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車を呼ぶ目安を目に付くところに配置し、また、急変時や事故発生時のマニュアルを作成し周知している。その他、定期的ではないが、急変時の対応について、研修を行い、適切に対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練にて、日中帯・夜間帯の想定を行い、災害時の訓練を行っている。また、緊急時には地域住民の方が協力の要請に応じて下さった為、緊急連絡網に連絡先を載せており、災害時の協力体制の確保に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にて接遇や不適切ケアについての研修を行っており、知識や声かけの技術の向上を図っている。また、個々の職員に意識づけをしてもらいながら対応することで、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いに寄り添えるように接することで、生活への参加をして頂きやすい様に環境を整備し、出来るだけ思いを組みながら自己決定して頂ける様に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとした雰囲気の中で、生活を送って頂ける様に配慮し、その時々ペースを大切にし、出来るだけ寄り添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の感覚を押し付けることなく、その方の好みに合わせた対応が出来る様に情報を収集し、生活を楽しく頂ける様に配慮している。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いのない様に手伝って頂ける様に配慮している。また、食事の提供に関しては、咀嚼や嚥下の状況に応じて形態を検討しながら、無理なく食べて頂ける様に配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態に関しては、採血結果等について主治医と相談しながら、必要であれば経腸栄養剤等を食事と併用し栄養のバランスが取れるように配慮している。水分に関しては、食事・水分摂取表を用い都度水分摂取量を確認しながらこまめに水分を促し、確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは勿論のこと、口腔ケア時には、その方の口腔内の状況に応じて、歯ブラシやスポンジ等を用いて清潔の保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄のリズムを把握しながら、トイレ誘導を行い、なるべくトイレにて排泄して頂ける様に配慮している。また、一度パットやリハビリパンツを使用しても、排泄の状況に応じて使用を中止するなど、その方の力に応じた支援が行えるように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	都度主治医に報告を行い、緩下剤の服用頻度や服用量について相談している。また、排便の状況に応じて、牛乳等の提供についても細やかに対応し、便秘の予防を図っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員配置の関係上、入浴日は決めているが、時間については、可能な限り対応できるように配慮している。また、入浴剤の使用やこまめな温度調節を行い、入浴を楽しんで頂ける様に配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間等は設けず、眠たくなったら寝ていただき、習慣に応じている。また、ゆっくりと入眠して頂ける様に不必要な巡回を行わない等の配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方簿を目に付くところに配置し、すぐに手に取れるようにしている。また、薬について疑問がある場合には、主治医に聞くことで、薬の目的や副作用について把握出来る様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に参加していただくことが必要と考え、対応している。無理強いする事なく、日々の生活を楽しんでいただけるように、やりたいことは何かを探りながら共に暮らせる様に努めている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況を考慮しながら、希望には出来るだけ添えるように努めている。また、永山亭を地域の方々に受け入れて頂ける様に働きかけを行っている。ご家族からの希望があった時には、送迎などの支援も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等と同行し、出来るだけ本人に支払いをしていただくなどし、自らの力で買い物をして頂ける様に努めている。また、接遇等の研修にて、入居者の方々のお金に対しての考え方の意識づけを行い、大切さに対しての理解に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった際には、随時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激についての研修を行うなどし、不要な刺激の排除に努めている。また、職員目線の心地よさにならないように、常に入居者の方々の状況を把握しながら、環境(温度や光、匂い等)に配慮出来る様努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	DRのソファをたくさん配置することにより、座りたい場所に座って頂ける様に配慮している。また、一人になりたい時には、事務所にて過ごして頂ける様に配慮し、居場所づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の面談時に自宅でのお部屋を再現して頂ける様に相談を行い、自室だけでも環境の変化が少なくできるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の適所に手すりを配置すると共に、出来るだけ力を発揮していただけるように、家具の配置やDRないの環境を整え、安全な環境が作れるように配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 永山亭

作成日：平成 29年 3月 14日

市町村受理日：平成 29年 3月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は定期的に行われ、町内会長以外の参加や、家族会会長以外の参加を事前に募っているが、働きかけ方が一つになってしまっており、あまり参加して頂けない状況となっている。	町内会長や家族会会長以外の参加が得られ、運営推進会議が現在よりも地域や家族同士の交流の場となる。	運営推進会議の案内にテーマを記載する事で、家族の方たちの意見が聞きやすい環境を整え、町内会長や民生委員の協力を得ながら、ゆっくりと町内会への働きを行う。	6ヶ月
2	35	年2回の避難訓練を実施し、近隣住民の参加は得られているが、救命救急や消防署職員の立会は得ていない。また、火災時を想定した訓練は行っているが、地震時の訓練は行っていない。	職員一人ひとりが意識を高め、避難訓練がより実践的なものとなる。	消防署職員の立ち会いを得て、救命救急の講習や、具体的な事例を設定し、地震等の災害時に混乱をきたさない様に知識の向上を図る。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。